

## 1 7 章 関西外国語大学における『ASEAN+3』大学コンソーシアム構想

### 1. 関西外国語大学における留学交流の概要

2009年2月現在、関西外国語大学は大学院1研究科、大学1学部2学科、短期大学部、留学生別科等を有する、外国語教育を主とする高等教育機関である。特に、関西外国語大学は、留学交流に実績があり、2008年11月14日現在、同校の提携校は、50カ国・地域の317大学に上る<sup>40</sup>。同校の派遣留学プログラムは、短期、長期合わせて約30あまりあり、毎年約1400～1500名の学生が、海外の提携校へ派遣されている。その内、350～400名の学生は、1年以上の長期留学者である<sup>41</sup>。関西外国語大学は、提携校からの外国人留学生の受け入れにも力を入れており、受け入れ留学生数は、約700名に上る。留学生別科にAsian Studies Programを設置し、1セメスターを基本として、提携校から交換留学生を受け入れている。Asian Studies Programは、受け入れ時に日本語能力を必須としておらず、留学生は午前中に7つのレベルに分かれた日本語クラスを受講し、午後は、人文社会科学、経済等に関する英語による講義を受講することができる。提携校から受け入れられた留学生がAsian Studies Programで取得した単位は、留学生の所属先大学で、単位の振替が認められることとなっている。

### 2. 「ASEAN+3」大学コンソーシアム構想の概要

「ASEAN+3」大学コンソーシアム構想は、2008年度、文部科学省の「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」に選定されたプログラムで、同校で実績のある英語による授業提供のノウハウを生かし、「留学生30万人計画」において重視されているASEAN地域との教育交流を活性化し、「エラスムス計画」のアジア版を構築しようと意図するものである。プログラムの目的は、ASEAN地域との教育交流を通して、「アジアを知りアジアを担う次世代国際人を養成する」<sup>42</sup>ことである。その目的に向けた具体的な取り組みとして、学

---

<sup>40</sup> 2008年11月28日、関西外国語大学提供資料による。

<sup>41</sup> 関西外国語大学国際部次長、「ASEAN+3」大学コンソーシアム構想プログラム代表者 豊田裕之准教授のコメントによる。（2008年11月28日聞き取り調査実施）

<sup>42</sup> 『『ASEAN+3』大学コンソーシアム構想 アジア担う次世代国際人の養成めざす』『THE GAIDAI』2008年10月23日特別号外 p.2

士課程教育の授業をすべて英語で提供する体制を構築し、二重学位の取得を可能とする他、学生に留学国において社会生活が可能なレベルの言語を習得させ単位を取得させること、また学生にアジアを知り、アジアで活躍することの意義や重要性を知らしめることが目標として挙げられている<sup>43</sup>。

「ASEAN+3」大学コンソーシアム構想の GP 補助金対象期間は、2008 年度から 2011 年度までの 3 年間であるが、GP の対象期間の 3 年間で、プログラムを軌道に乗せ、GP 終了後も引き続きプログラムを発展・継続させていくべく計画されている。2008 年度は、中国の上海外国語大学、北京語言大学、北方工業大学、天津外国語学院、韓国の釜山外国語大学との間で、学生の派遣・受け入れ等、プログラム始動に向けた準備を開始している。同時に、ベトナムの提携校に対して、プログラムへの参加を働きかけ、2009 年にベトナム国立社会人文科学大学を加えた 7 大学でコンソーシアムを結成することを目指している。2009 年秋学期から学生の派遣・受け入れを開始し、2010 年にプログラムの拡大に向けた交渉を開始する。GP 事業の終了年度である 2010 年に、外部評価委員によるプログラムの中間評価を行い、第 1 期派遣留学生が学士を取得する 2011 年度にプログラムの総括評価が行われる予定である。

プログラムの実施体制は、コンソーシアム構成大学の学長によって組織される「ASEAN コンソーシアムプログラム推進委員会」の下、関西外国語大学内に「プログラム推進委員会」が設置されている。

#### (1) 「ASEAN+3」大学コンソーシアム構想の特徴 (1) : 英語による教育体制

本プログラムの特徴は、学部レベルにおける英語による授業提供と二重学位の取得の 2 点にある。派遣・受け入れ学生数は、当面の間、各 20 名程度と予定されている。関西外国語大学における受け入れ留学生に対する教育は、主として学部レベルの英語による授業を増設する他、既存の交換留学生向けの英語によるプログラム Asian Studies Program を活用し、対応する。「ASEAN+3」大学コンソーシアム構想のプログラムの枠組みで受け入れる留学生を対象に、英語で提供する社会科学系の新たな科目を開講する他、ビジネス&ホスピタリティ、国際機関の職員養成など複数のコースを設定し、留学生が選択履修できるようにする。更にこれらの英語で提供される授業の一般学生の受講を認め、留学生と一

---

<sup>43</sup> 『「ASEAN+3」大学コンソーシアム構想 アジア担う次世代国際人の養成めざす』『THE GAIDAI』2008 年 10 月 23 日特別号外 p.2

般学生が共に英語で学べる環境を整える。英語の授業を担当するのは、留学生別科において提供されている Asian Studies Program の授業を担当し、学士課程レベルの学生に対する教育能力を持つ外国人教員 10 数名と、ネイティブスピーカーと同等レベルの英語力を備えた語学系、社会科学系科目の日本人教員である。これらの日本人教員は海外の大学の学位取得者や海外の大学での教育経験を持つ者である。さらに日本人教員を対象とした FD として、語学系以外の日本人教員は、ウィスコンシン大学オークレア校教育学部で実施される教授法の研修に参加することとなっている。なお本プログラムでは、英語による授業が原則であるが、プログラム開始当初は、英語と日本語の双方の語学力を備えた、中国、韓国の外国語大学出身の学生が主流となることが予想されるため、学生のニーズや希望に合わせて、日本語で提供される授業の履修を認めるなど、柔軟な対応が採られるとのことである<sup>44</sup>。

関西外国語大学から派遣される学生については、派遣先の大学において英語で提供される社会科学系の科目を履修するとともに、派遣先国の言語を学び、卒業後、語学力と留学経験を生かして、ビジネスの分野や国際機関で活躍することが期待されている。

## (2) 「ASEAN+3」大学コンソーシアム構想の特徴 (2) : 二重学位

本プログラムの参加学生は、所属大学に 2 年間在籍し、学部 3 年時に留学を開始、留学先大学に 2 年間在籍した後、所属大学に戻り卒業する。所属先大学、留学先大学の双方の学位取得を可能とするため、基本的に双方の大学で単位互換・認定を行う仕組みになっている。二重学位の取得を可能にするには、相手先大学と単位互換や認定のシステムについて、入念に検討し合意を得ておく必要があるが、関西外国語大学は、2008 年現在、既にアメリカ、スウェーデン、中国の大学と二重学位授与の提携を結んでおり、この実績が

「ASEAN+3」大学コンソーシアム構想に生かされている。なお、授業料については、交換交流の枠内であれば、相互に授業料を免除する<sup>45</sup>。プログラム参加学生に対する奨学金支給はないが、宿舎が提供されることとなっている。

---

<sup>44</sup> 関西外国語大学国際部次長、「ASEAN+3」大学コンソーシアム構想プログラム代表者 豊田裕之准教授のコメントによる。(2008 年 11 月 28 日聞き取り調査実施)

<sup>45</sup> 関西外国語大学 田村幸男事務局長のコメントによる。(2008 年 11 月 28 日聞き取り調査実施)

### (3)プログラムの質保証に関する取り組み

本プログラムの質保証に関する取り組みとして、1) 外部評価委員会によるプログラム評価、2) FD 研修による教育の質向上、3) 留学候補生に対する予備教育の充実、の3点が挙げられる。プログラムの評価については、アジアの大学教育に見識を持つ少数の委員で構成される「ASEAN コンソーシアムプログラム外部評価委員会」が設置され、 Semester 単位でプログラムの実施状況について調査が行われる。教員の FD 研修は、先に述べた通り、アメリカのウィスコンシン大学において実施される。なお、関西外国語大学では、教員が相互に授業を見学し評価する授業公開週を設けるなど、従来から FD に力を入れている<sup>46</sup>。また、同校では、長期学位留学や交換留学の候補生を対象とした予備教育プログラムが非常に充実しており、ペーパーの書き方、プレゼンテーションの仕方、資料収集の方法など、Study Skills を身につけるための「留学候補生予備教育コース」、英語での Content Course である「留学準備コース」が開講されている。これらのコースに加えて、留学生別科で留学生を対象に英語で開講されている科目を受講することも可能である。また、長期留学帰国者を対象とした「帰国留学生セミナー」も開講されている。

このように、関西外国語大学では、外部評価委員会を設置し、客観的なプログラム評価を行うと同時に、従来からの FD 活動や、留学候補生を対象とした十全な予備教育プログラムを活用し、プログラムの質の向上に向けた取り組みがなされている。

### 3. アジア版エラスムス計画実現への示唆：リベラル・アーツ学部教育交流モデル

以上、見てきたように関西外国語大学による「ASEAN+3」大学コンソーシアム構想は、同校の留学生別科や学部レベルにおける英語による授業提供の豊富な経験と実績、317校にも及ぶ提携校とのネットワークを生かし、ASEAN 諸国との教育交流を活性化させ、「アジアを知りアジアを担う次世代国際人を養成する」<sup>47</sup>ことを標榜する先駆的なプログラムである。本プログラムは、学部課程のリベラル・アーツ教育におけるアジア版エラスムス計画の実現に多くの示唆を与えるパイロットプログラムとして今後の展開が大いに期待される。本プログラムは、2008年に始動、実際に学生交流が開始されるのは、2009年の秋以降とい

---

<sup>46</sup> 関西外国語大学 田村幸男事務局長のコメントによる。(2008年11月28日聞き取り調査実施)

<sup>47</sup> 『「ASEAN+3」大学コンソーシアム構想 アジア担う次世代国際人の養成めざす』『THE GAIDAI』2008年10月23日特別号外 p.2

うこともあり、具体的なプログラム内容やプログラムの質保証に関しては、今後の評価が待たれる。本プログラムは、先に見たように、外部評価委員会による客観的評価、教員を対象としたFD、学生に対する十全な予備教育など、プログラム、教員、学生の3つの観点から、プログラムの質保証に向けた取り組みがなされている。関西外国語大学の

「ASEAN+3」大学コンソーシアム構想は、アジア版エラスムス計画におけるリベラル・アーツ学部教育交流モデルとして注目に値する優れた取り組みである。また、文部科学省が推進する留学生30万人計画では、学部レベルの英語による教育を推奨し、英語で学位が取れるシステムを構築するよう推奨しているが、「ASEAN+3」大学コンソーシアム構想における英語による教育プログラムは、そのモデルケースであり、留学生30万人計画を具現化する一つのスキームであるとする。ただ、現時点で、敢えて課題を挙げるとすれば、

「ASEAN+3」の国々と、二重学位授与のシステムをいかに構築し、教育の質を保証していくかどう点にあると考える。「ASEAN+3」の加盟国は、ASEAN10カ国のインドネシア、シンガポール、タイ、フィリピン、マレーシア、ブルネイ、ベトナム、ミャンマー、ラオス、カンボジア、とプラス3の中国、韓国、日本であるが、これら13カ国の高等教育制度は実に多様であり、単位付与や学士卒業要件についても各国独自のシステムが採られている。関西外国語大学は、既にシンガポール、タイ、フィリピン、マレーシア、ベトナムの複数の大学と提携を結んでおり、2009年には、ベトナムやその他のASEAN諸国の大学に、「ASEAN+3」のコンソーシアムへの加入を働きかけていく予定であるとされている。今後、これらの提携校を中心に、単位互換と二重学位授与の制度構築について議論がなされると考えるが、多様な高等教育システムを有するASEAN諸国との間で、どのように単位互換を取扱い、二重学位授与にかかる制度を整備していくのか、本プログラムの今後の展開を引き続き注視していきたい。

謝辞：

本報告をまとめるにあたり、関西外国語大学事務局長田村幸男氏、同国際交流部次長、豊田裕之准教授には、詳細について快くインタビューにお答えいただき、また貴重な資料をご提供いただいた。この場を借りて、深く御礼申し上げたい。